

20099

#### 個人線量計を用いた被曝防護教育について

[目的]カテ室で行なわれる検査・治療のほとんどは X 線透視下で行なわれ患者のみならず、その業務に携わる医師やコメディカルは常に被曝(職業被曝)の危険にさらされる。職業被曝の低減は必須であり業務に携わる者として、被曝防護の知識の見直しの必要性を感じたので以下に報告する。[方法]・被曝防護に関してスタッフ(看護師)の意識調査・各個人の外部被曝線量の数値化及び比較・モニターを設定し PHILIPS Dose Aware システムを使用し外部被曝線量のモニタリング・被曝防護教育の見直し[結果]経験年数や長時間の治療を多く担当しているスタッフの外部被曝線量は高値ではなかった。カテ室配属になると、放射線技師より被曝防護の教育を受けるが時間の経過と共に意識が薄れていく傾向にある。業務内容によっては看護が優先であり被曝防護が後回しとなる事もある。経験年数を問わず被曝防護に関しては必要性を感じながらも看護に集中している現実があり、今回 PHILIPS Dose Aware システムを使用した事で外部被曝線量をリアルタイムに測定、可視化することでできた。可視化することで被曝低減への意識が高まった。[結論] 経験年数を問わず職業被曝の低減は必要であり、被曝防護の意識付けは必須である。知識を再認識させるため、被曝防護の教育内容はニーズに応じて見直す必要がある。PHILIPS Dose Aware システムを活用する事で個人の被曝防護への意識を高められた。